

様式1〔申し合わせ事項〕 【委員会、全協：共通様式】

2026 年 7 月 13 日

東員町議会

議長 三宅 耕三 様

東員町議会

議員 広田 久男

研 修 報 告 書

研修期間	2026 年 7 月 2 日（木） ～ 7 月 3 日（金）【 2 日間】
研修（視察）先	福島県会津若松市
目的（テーマ等）	議会改革について
特記事項	

※ 目的、研修概要、内容、所感などは、次ページに記入すること。

様式 1〔申し合わせ事項〕：【委員会、全協：共通様式】

〔氏名： 広田 久男 〕

目的、研修概要

- 1)会津若松市は、東北新幹線の郡山駅から高速バスに乗り換え、磐越自動車道を約 1 時間程度西方向に移動したところにある、降雪量が多く、豪雪地帯に指定されている市です。
- 2)人口は約 11 万人(桑名市より約 2 万人程度少ない)、面積は約 383km²(桑名市の約 3 倍)あり、面積の約 2/3 は山間地で占めています。
- 3)会津若松市議会は、議会改革度調査において毎年上位にランクインしており、また、第17回マニフェスト大賞(令和 4 年)において最優秀議会改革賞を受賞した、議会改革のトップランナーとして知られている市議会であり、その議会改革の取り組みについて伺ってきました。

内容

会津若松市議会の取り組みは学ぶべきことばかりですが、注目した点を絞り込むと、1)市民意見を起点とした政策サイクル 2)政策サイクルと予算審査・決算審査の連動 3)議会評価です。

- 1)会津若松市議会では地区別に市民との意見交換会を実施、また、各常任委員会は分野別意見交換会を行なうなど、住民意見や各種団体の意見などを聴き取り、整理した上で、市政の問題点や課題の発見、解決に向けた分析・調査研究を行うとともに、政策立案、政策提言までつなげる一連の政策サイクルを構築しています。

- 2)予算審査・決算審査が行われる1～2か月前から分科会ごとに、市民意見などをベースに議論する要点をまとめた「抽出論点表」を作成する。(見本例の出来映えは参考にすべきものです)。

更に、令和 4 年に通年議会を導入した以降は、これまで議会閉会中に行ってきた市民との意見交換会や議員で行う政策討論会などの調査研究活動は、予算決算委員会の所管事務調査の一つとして、正式な議会活動に位置付けた扱いとなった。

これにより、市民意見の聴取→政策研究→予算審査→決算審査までの政策サイクルを、一つの委員会で1年間を通じて一貫して行い、専門性を高めることができたという。

- 3)議会評価は、令和 3 年4月より特別委員会を設置して取り組んでいるもので、「議会の取り組みが住民福祉の向上に資するものとなっているのか」を、議員自身による評価、市民による評価、および学識経験者による講評などから、課題を明確化するとともに必要な議会改善を行う、議会改革のサイクルを継続的にまわす評価モデルを構築しようとするものです。

所感

会津若松市議会は、平成 20 年度に決めた議会基本条例を最も重要な不変の土台として、最終目的は「市民福祉の向上と市政発展への貢献」であり、議会改革(議会の仕組みやルールづくり)は、目的を果たすための手段にすぎないことを理解し、10 年以上も議会のあるべき姿を追求し続け、そして進化させています。

住民に信頼される議会づくりを継続して推進している会津若松市議会の視察は大変参考になりました。

以上